

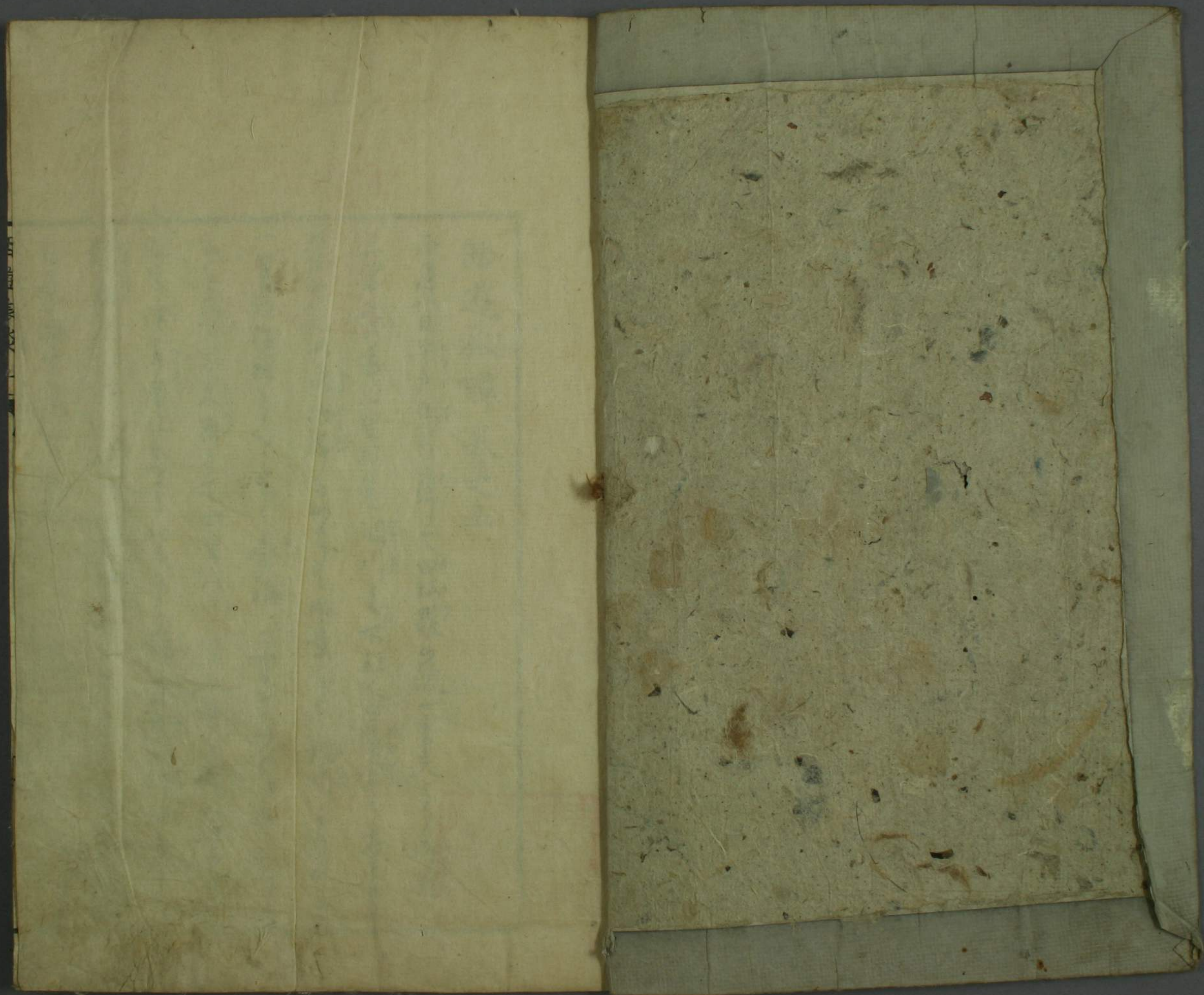
西遊旅譚

卷之伍

ル 3
334
5

特別
ル 3
334
5





門ル呂3
號334
卷5



西遊旅譚卷之五

正月八日平戸島を發して田以羅の渡一里夫とて津屋

三里又の津一里にして調川とて社人の館舎とて高を其

の山中に此海海岸とてわづらて風景とて調川よりいり

一里志作村とて今福、二里をわづらえとていり

三里伊多里に高き此山を鋸島度の領地とていり

焼あとの山と大河内山有田山此山中とて焼あとの陶器

日本國中にいり

日本國中にいり



十日風きききききき
此山多し屋敷野村
山の半にあり此山
唐津と伊万里乃
新羅をくくくく
遠東はくくく此山
之里あり浪崎そ
あり宿を此山
山



有田山
波の
市厨乃
乃七ツ島
り

唐津山

佐賀山

ハセ村



大河内山
此山
三里
焼物作ル

村クス

鷺島

ノ島

立

立



志作より
今福ノ間
水方眺

文島

水方

鮪楼

海中に

と云

今福方
行路より
州壹



十日徳末と發してより二里半吉
井村にあり吉井川より渡りて
出る西海唐津の城海濱と
痛くそゆる水野辰六
石ノ城下ナリ又より一里
半海江にあり二里とるを前
山を此山千七二
イカチの雷山の
下とて山千七二
イカチの唐画の
有りに雪れ斑に降りて一
不動堂あり又瀧あり

十二日イニをハより二里イニ今福イニにイニより二里イニに
好のハより二里イニ今福イニにイニより二里イニに
夫よりハより二里イニ今福イニにイニより二里イニに
西の方海ハより二里イニ今福イニにイニより二里イニに
山ハより二里イニ今福イニにイニより二里イニに
正月十五日此地にハより二里イニ今福イニにイニより二里イニに
戸ハより二里イニ今福イニにイニより二里イニに
肩衣ハより二里イニ今福イニにイニより二里イニに
改ハより二里イニ今福イニにイニより二里イニに

酒とのみそくは是を松林とて呼ぶ所謂たるが如く
いへば博多ハ唐船の渡海し今所を處の如く福岡の
領地を以て故より時々の所今に在り近世ハ踊る
或はあふと出に梯田の祠博多第一の大社より柳町
までいへる色町なり

十六日博多とて舟を乗りて里を越ゆる所の
崎ハ幡夫より江原と通る青柳とて四里此所は中なる
藤原の残の島とて早良又山中ニ入二里とて一畝町とて



雷山



モロノ河ニカ
橋七千間余

作賀山
山前山
船



西遊傳記

日

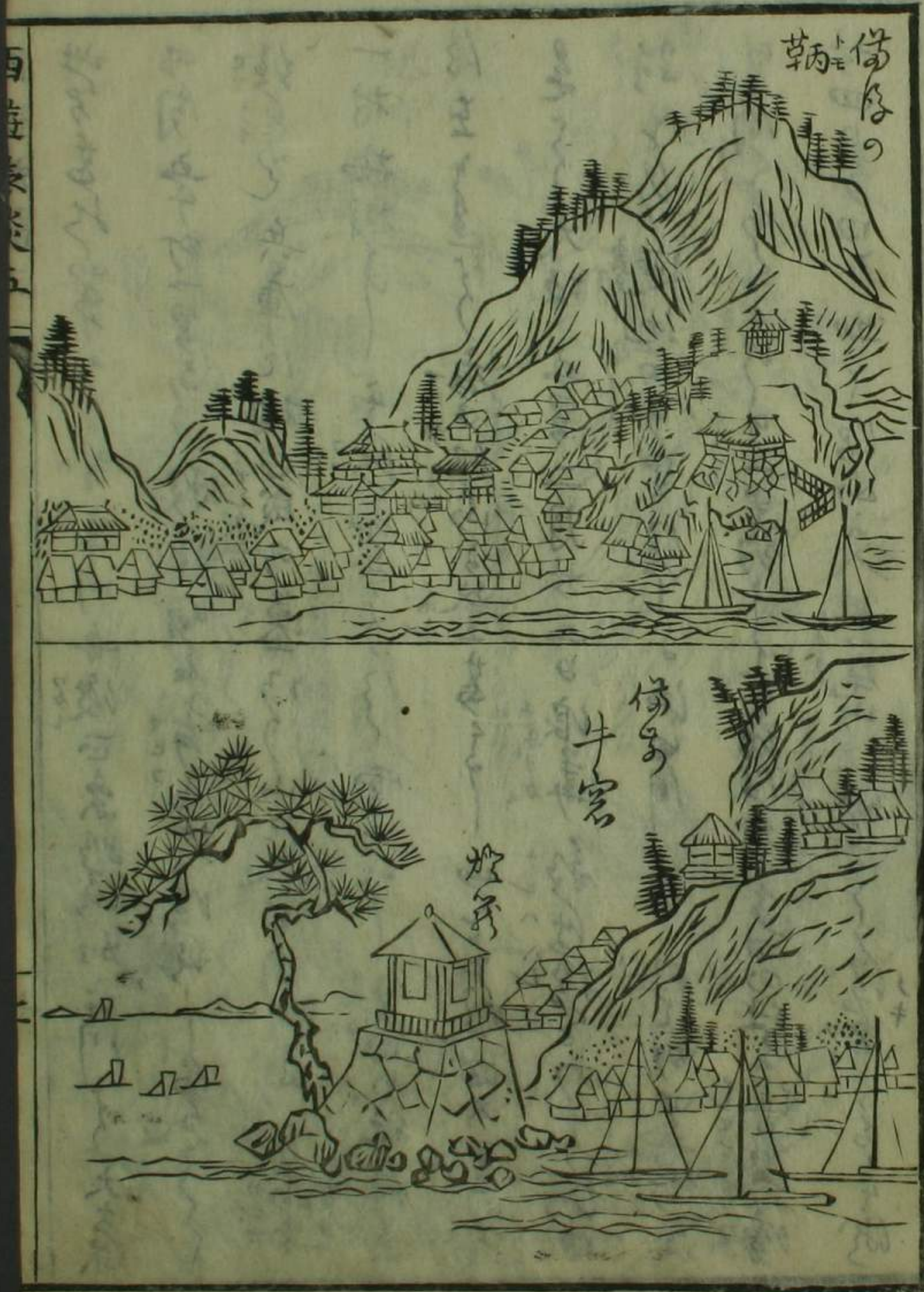
五 送方記五
 松林 博多町人福岡あり



行事二里赤間アカマに宿を十七日赤間と暮るゆき四里木
 屋瀬ヤノセにゆき此路田畑タテ原に勢多セタ一ナ勢多白ツルナリ
 石炭セキタンと堀ウツをこも石炭のうらより石と出は皆本紋ゆき
 松林マツバヤシの化居カウセキし予あるに石炭八山の勢多セタなる箱根山神代
 杖ツヅの如く樹地中に埋れ石を化イワカ磁黄イワカのまをほし磁セキの如
 甚臭シウキ臭ウシ油アブと磁セキ黄イワカれまの石イシ物モノのうらより出はにま
 本紋モクモクをゆき化居カウセキの如く杖ツヅの如く杖ツヅの如く杖ツヅの如く杖ツヅ
 本屋モクモクの如く長崎の西修サイシュの如く是より石炭の如く出はにま
 いり少倉シウカウより三里海とつる即スグ下関シモセキ赤間アカマあり

百 送方記五

五

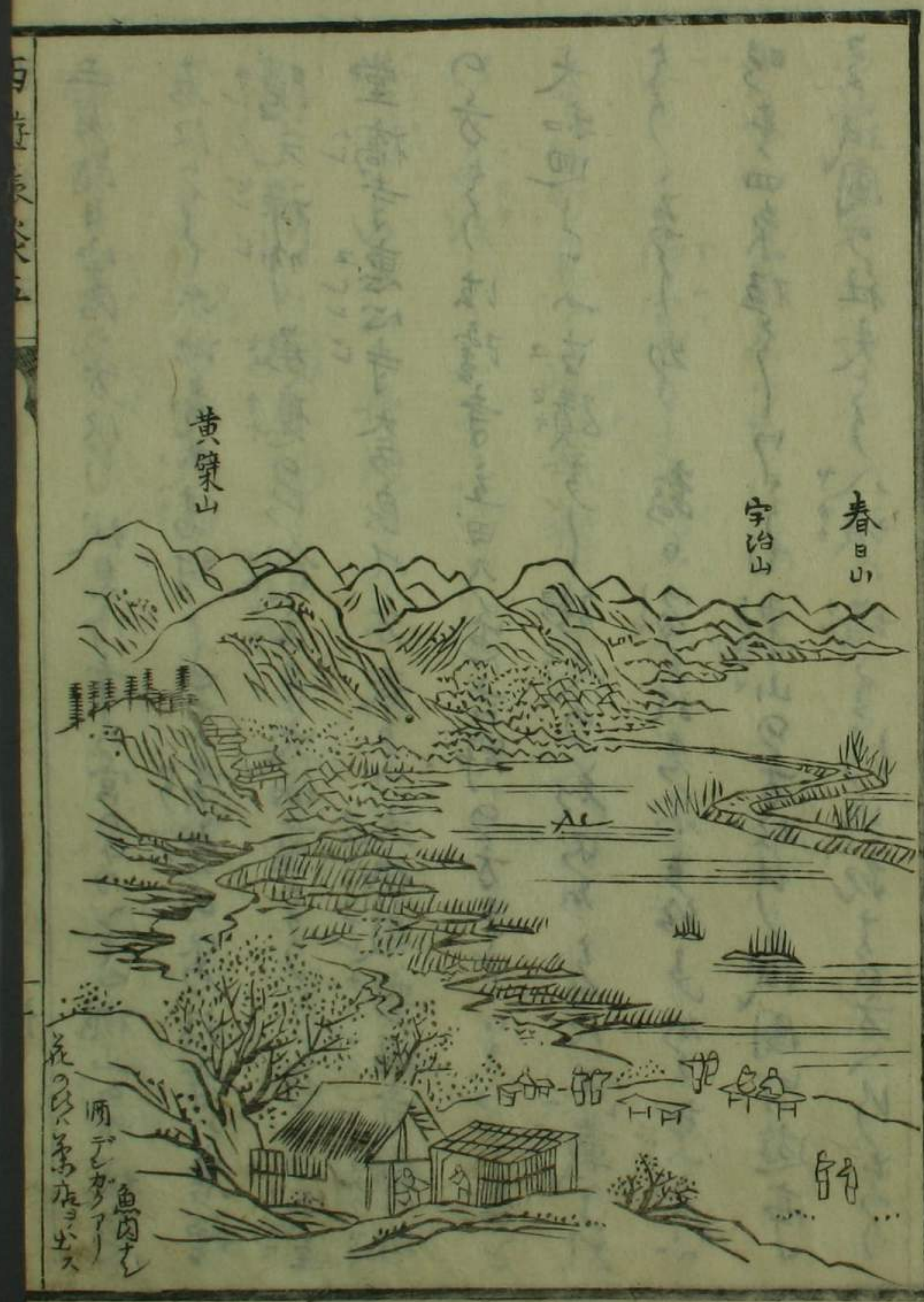


廿一日下関より船を乗西風吹て
 方州難と走事三十五
 里奴和と云少あふ船をうける人
 家十八九軒又西風
 に帆を上げて越州の内海に洗と
 うとあふうをて泊る
 海岸人家多し廿三日出帆一備後
 の鞆と云ふ船を
 乗る福山の船地し人家八九軒
 船は津を待て渡
 せしむに海内を渡る廿四日
 帆を揚げて廿五
 日と云ふ七時備後の牛宮に到
 領地此所も船をうける
 陸地をりし七里備後の山を
 二月十九日山を渡り
 藤井一市吉井川を渡り伊部
 斤上八本山をりし三石有年

勢子又直に後を引給の流に以て流の右山にのびて路甚狭
 石をよらる越る勝尾寺観音堂より西三十三所の礼所より
 山上より大坂の方と申に五里ほど通に城見ゆる夫より山を
 山田の方より此を西流に河ふれに食店より河と二瀬舟を
 渡す一ハ長良の渡と云渡りゆき大坂へ入
 二月廿八日浪華をゆく関峠を越る伏見の方より伏
 見豊後橋より京町より此所れ裏手は畑より
 畑の中へ梅畑と多粒方六町より桃山と名づく吉原良
 の方より流より大和街道より畑と諸庄の名に存せり

宇治見臺より此所古の城内庭の跡と云生小山より
 湖中に堤あり小倉堤と云垂吉此堤と築本良より宇治
 を廻り遠敷より堤三町より岸に楊柳多し柳より此堤を
 喜中より申に左の方宇治の里宇治川流る向に喜良山見
 送り金剛山吉野山見ゆる右に関峠モロ木山八幡山と申
 湖中津丹樂と邊一堤の半に澳村あり此桃の花
 内より一々山々皆錦の如し
 墨原の里遊亭より此所より寺に墨原橋より檀
 町今更つづつに越色の如し

宇治の春景
一景



大正四年三月廿一日
 宇治の春景
 一景

魚肉
 両テカア
 花の山

三月朔日宇治の方より伏見市幸の宮のまゝとて槻山の下城迄
 左にそそぐ六地飛木橋村とて美智山家福寺ハ唐僧
 隱元禪師承應の以創立す大伽藍ありとれとて三室
 堂橋寺惠心寺大石良方春山大佛殿興福寺郡山
 の方より法隆寺立田乃迄吉野の方まゝとてまづく是と
 大和廻とて古蹟多し旅人の知れぬ處に不載され
 たり、東より出づ數日歩れぬ所多しとてあふれ
 略々四糸極々一ツとて東山の方より祇園町遊亭
 とて祇園の社夫とて八坂の塔とて清水親善の方よりとて

西遊記の野天神水の門とて紙百川にりりり山移とて遊亭
 乃社より多治のまに極多し 又京多し社に再表々
 東のまゝ御室とて法堂堂のまゝ八手極多し 夫より
 二十餘町とて暖峯釋迦堂とて七八町とて嵐山とて
 松の本谷とて一々極多しとて大井河とてのまゝとて東ハ
 桂川とて山ハ丹波のまにに経りそのまゝ茶店とて食
 たりとて河の橋と掛るとは月橋とてとて海とて虚空藏
 堂とて茶店とて夫より東の方へとて路松尾の社
 梅宮とて甚奇とてありとてまゝとてとておりの人稀とて



西邊旅談五

三條橋より四條まで



藏屋空

嵯峨嵐山

西遊記卷五



移る桂の波千本通より此東女の方より東寺に弘法
 大師の像此の終る開帳なり三月廿一日より諸人より多し本堂
 ハ千手観音法堂ハ法師より多し此寺より大伽藍あり
 一と仁の比焼く門有羅城西本願寺又本國寺の前を
 西南の洛外を廻りて小東の方ハ巖山イハサン近江ノ國ナリ鞍馬貴
 布衣フイ賀茂時人の志ありあはれハ有治



三月廿八日近江国
 鈴鹿山とて
 筆捨山景色
 残花
 あり

四月
 美濃
 至山
 堂本



西遊記 卷五



十解峠一里廿五町アリ
峠ニ馬籠宿アリ



エナガダケ
胞衣ヶ嶽
雪々白
此不^レ五里
九月十九日
五里峠
新^レ嶽
小^レ方^レ嶽
加賀^レ国^ニ白^レ嶽
又^レ右^レ方^レ嶽
皆^レ雪^レ峯^ニ也



百廿六



雪峰

稻川橋 野尻須原の方
底ハ岐岨川ニ入

西遊記五

十六

四月十日淺間山の下の四十路幸ひの此山焼ゆき
 焼石皆大石の色は紅又七幸ひの焼出
 浮く坂本碓氷峠山皆焼石し楡木枯少石あり此地
 幸ふ松すくお松あり文初の本より上州妙義山
 幸ふ方よりゆるに山のうしろに鬼あり



一里餘幸くゆる
 岩山幸く二つの宮
 生穴つらぬきし目
 へる負合より大目射
 ぬきの宮

妙義山岩峯
 画事不終



十二日深谷より熊谷宿より堤^{ドテ}ニ午町より^{サウカチ}泉角より
 樹^キ多し右の方相州大山又富士山又^シ四月十三日大
 宮より板橋より^{ケウリ}郷里^{ニセンサ}神僊に^シつる

寛政庚戌四月

門人蘭江平民誌

江漢先生著

春波樓藏版目錄

- 一 銅版地球全圖 并畧說一冊添 出来
- 一 銅版東都八景 壁一尺余横一尺三寸余の
のき目が糸より繪 出来
- 一 銅版天毬之圖 并天文畧話一冊添
皆天地窮理ヲ譯ス 出来
- 一 銅版地球大全圖 今圖して合するとして
三尺の圖圖々々
并萬國風土考一冊添 近刻
- 一 春波樓画譜 本版及銅版にて山水人物花鳥と圖を 近刻
- 一 和蘭奇工 銅版の彫方及するを解阿婆他画
之法より力^カて天文の器^{ウツ}の^{ウツ}和蘭
奇器の製法と圖を以て^イ一冊 近刻

西遊後談

